

**Ampeg**

*SVT-VR*

*Bass Amplifier*

# 取扱説明書



**Ampeg**

## 目次

はじめに .....	2
本機の特長 .....	3
各部の名称と働き(フロントパネル) .....	4
各部の名称と働き(リアパネル) .....	5
真空管の交換について .....	6
推奨セッティング例 .....	7
故障かな?と思われる前に .....	8
システムブロック図 .....	8
技術仕様 .....	9

## はじめに

このたびはAmpeg SVT-VRをお買いあげいただきまして、ありがとうございます。

Ampeg SVTシリーズの古典的で倍音豊かなサウンドと伝説的なパフォーマンスが、SVT-VRとなって復活しました。この多才でパワフルなベースアンプは、最大300Wという驚異的なパワーを実現。最高の音質、信頼性、柔軟性、多くの新機能を備え、しかも古典的な真空管サウンドを再現します。

このマニュアルでは、SVT-VRのすべての操作法と機能について詳しく説明しています。SVT-VRをご使用になる前に、一通りお読みになることをお勧めします。

## 本機の特長

ハイエンドのベースアンプの分野では、Ampegアンプは孤高ともいえるべき存在です。伝統的なAmpeg製品と同様、SVT-VRはクラスを越えた出力、性能、柔軟性を誇ります。ここでは、他の競合製品に比べて特に優れた点を紹介しましょう。

### 独立した2系統のチャンネル

ボリュームとトーンコントロールを個別に内蔵した、独立2系統のチャンネルを搭載しています。

### 2系統( ブライト / ノーマル )の入力端子を装備

それぞれのチャンネルで、通常の入力またはハイエンドを強調した ( ブライト ) 入力を選択できます。

### ウルトラハイ、ウルトラロー、ベースカットスイッチを装備( チャンネル1のみ )

ボタンの操作だけで、大胆な音色加工が行えます。

### ミッドレンジの周波数を切り替える“ 1・2・3 ”スイッチを搭載( チャンネル1のみ )

ミッドレンジの中心周波数を切り替えることで、自由な音作りが行えます。

### バイアス調節用コントロールを装備

真空管のバイアスとバランスを最適な状態に調節できます。

### スレーブ出力端子

この端子からプリアンプの信号を外部のパワーアンプに送ることができます。

### パワーアンプ入力端子 / プリアンプ出力端子を装備

外部のプリアンプを接続するパワーアンプ入力端子や、外部のパワーアンプ( スレーブアンプ ) を接続するプリアンプ出力端子を搭載しています。

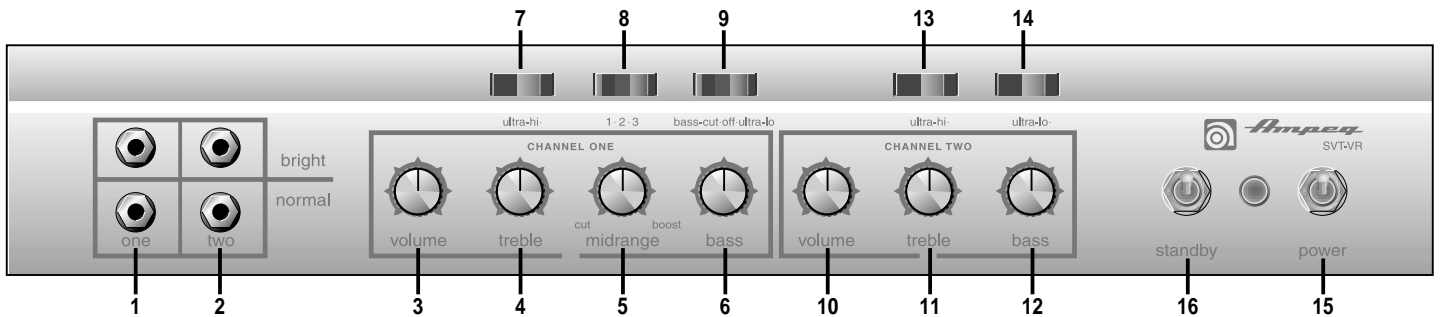
### バランス仕様のライン出力端子

独立したレベルコントロールとグランドリフトスイッチを備えた、バランス仕様のXLR端子を搭載。ポストEQとプリEQの切り替えが可能です。

### 強固なスピーカー端子

大出力で使用する場合でも信頼性の高い接続が可能なスピコン端子を装備しています。

## 各部の名称と働き(フロントパネル)



1. ONE(チャンネル1)入力端子  
シールドコードを使って、楽器の出力またはラインレベル機器の出力を接続します。BrightまたはNormalのどちらか一方の端子のみをご使用ください。Bright端子では入力信号の高音域が強調されます。これらの端子に入力された信号は、チャンネル1のプリアンプセクション(トーンコントロール/ボリューム)に送られます。
2. TWO(チャンネル2)入力端子  
シールドコードを使って、楽器の出力またはラインレベル機器の出力を接続します。BrightまたはNormalのどちらか一方の端子のみをご使用ください。Bright端子では入力信号の高音域が強調されます。これらの端子に入力された信号は、チャンネル2のプリアンプセクション(トーンコントロール/ボリューム)に送られます。
3. VOLUME(ボリューム)コントロール  
チャンネル1の出力レベルを調節するコントロールです。
4. TREBLE(トレブル)コントロール  
チャンネル1の高音域のレベルを調節するコントロールです。4kHzを中心に最大12dBのブースト/カットが行なえます。このコントロールを中央に合わせると、高音域がフラットになります。
5. MIDRANGE(ミッドレンジ)コントロール  
チャンネル1の中音域のレベルを調節するコントロールです。1・2・3スイッチ(8)で選択した周波数を中心に、最大20dBのブースト/カットが行なえます。このコントロールを中央に合わせると、中音域がフラットになります。
6. BASS(ベース)コントロール  
チャンネル1の低音域のレベルを調節するコントロールです。40Hzを中心に、最大12dBのブースト/カットが行なえます。このコントロールを中央に合わせると、低音域がフラットになります。
7. ULTRA HI(ウルトラハイ)スイッチ  
チャンネル1の高音域を強調するスイッチです。このスイッチは右側に押し込むとオンになります。ブーストされる量は、VOLUMEコントロール(3)の設定によって決まります。
8. 1・2・3スイッチ  
MIDRANGEコントロール(5)で操作する中心周波数を選択するスイッチです。選択可能な周波数は、220Hz(スイッチを左側に押し込んだ状態)、800Hz(スイッチを中央に合わせた状態)、3kHz(スイッチを右側に押し込んだ状態)の3通りです。
9. BASS-CUT / OFF / ULTRA-LO  
(ベースカット / オフ / ウルトラロー)スイッチ  
このスイッチを左側に押し込むと、チャンネル1の低音域が減衰します。このスイッチを右側に押し込むと、チャンネル1の低音域が強調されます。このスイッチは中央に合わせたときに無効になります。
10. VOLUME(ボリューム)コントロール  
チャンネル2の出力レベルを調節するコントロールです。
11. TREBLE(トレブル)コントロール  
チャンネル2の高音域のレベルを調節するコントロールです。4kHzを中心に最大12dBのブースト/カットが行なえます。このコントロールを中央に合わせると、高音域がフラットになります。
12. BASS(ベース)コントロール  
チャンネル2の低音域のレベルを調節するコントロールです。40Hzを中心に、最大12dBのブースト/カットが行なえます。このコントロールを中央に合わせると、低音域がフラットになります。
13. ULTRA-HI(ウルトラハイ)スイッチ  
チャンネル2の高音域を強調するスイッチです。このスイッチは右側に押し込むとオンになります。ブーストされる量は、VOLUMEコントロール(10)の設定によって決まります。
14. ULTRA-LO(ウルトラロー)スイッチ  
チャンネル2の低音域を減衰するスイッチです。このス

イッチは右側に押し込むとオンになります。

15. POWER(電源)スイッチ

まずこのスイッチを押し上げる前に、STANDBY(スタンバイ)スイッチがSTANDBY側(スタンバイモード)になっていることを確認してください。このスイッチを押し上げると、アンプに電源が供給されます。20秒以上経ってからスタンバイスイッチを押し上げてください。

このとき、スイッチの隣にあるランプが緑色に点灯します。この点灯は、スタンバイモードを抜け出したことを示しています。20秒後に電源スイッチを押し上げ、使用することができます。

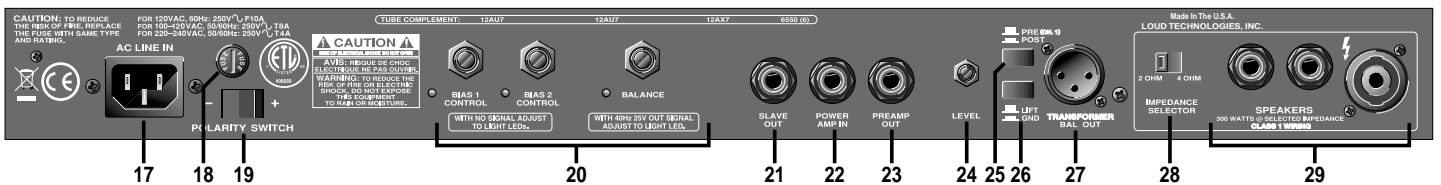
また、電源を切る(スイッチを押し下げる)際は、先にSTANDBY(スタンバイ)スイッチをSTANDBY側(スタン

バイモード)に押し下げ、20秒以上経ってから電源スイッチを押し下げてください。

16. STANDBY(スタンバイ)スイッチ

スタンバイモードは、高い電圧をかけずに、真空管のウォーミングアップを行ったり、真空管の温度を保持したりするためのモードで、真空管を長持ちさせる効果があります。最初にアンプの電源を入れるときは、必ずスタンバイモードにしてください。たとえ短時間でもアンプを使わないときは、スタンバイモードに設定してください。このスイッチを押し下げると、スタンバイモードが作動します。アンプがスタンバイモードのときは、このスイッチの隣にあるランプが赤く点灯します。

**各部の名称と働き (リアパネル)**



17. AC LINE IN(AC電源 端子)

付属する電源コードのメス側のプラグをこの端子に差し込み、しっかり固定されるまで押し込んでください。コードのオス側のプラグは、背面に記載された電源仕様に対応するコンセント(アース処理されたもの)に接続してください。端子部のグラウンド用ピンを折ることは、絶対におやめください。

18. ヒューズ

過負荷やサージ電流から本体を保護するためのヒューズです。ヒューズが切れたときは、必ず同じ容量で同タイプのもので交換してください。頻繁にヒューズが切れる場合は、お買いあげの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご相談ください。

19. 極性スイッチ

電源の極性を切り替えるスイッチです。このスイッチは、アンプから生じる電気的ノイズがより少ない方の極性に合わせてください。

20. BIAS/BALANCE

(バイアス/バランス)コントロール  
パワーアンプのバイアスとバランスが適切な設定になるように、調節するためのコントロールです。

- ノート
- ・ 真空管の交換や調整は、ヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
  - ・ お客様ご自身でリアパネルを外したり、真空管を交換しようとするのは、絶対におやめください。

21. SLAVE OUT(スレーブアウト)端子

プリアンプの出力信号を外部のパワーアンプに送出するための端子です。この端子からは、ポストEQの信号が出力されます。

22. POWER AMP IN(パワーアンプ入力)端子

SVT-VRのパワーアンプに、外部プリアンプの出力信号を直接入力するための端子です。外部ソースを使用するときは、シールドケーブルを使ってその機器の出力端子をこの端子に接続し、信号をSVT-VRのパワーアンプに送ります。この端子にプラグが差し込まれている間、SVT-VRのプリアンプ回路はバイパスされます。

23. PREAMP OUT(プリアンプ出力)端子

内蔵プリアンプから、外部パワーアンプ、レコーディングコンソール、モニターシステム、PAミキサーなどの外部機器に信号を送出するための端子です。この端子からは、ポストEQの信号が出力されます。

24. LEVEL(レベル)コントロール

バランス出力端子(27)の信号レベルを調節するコントロールです。このコントロールは、フロントパネルのVOLUMEコントロール(3と10)とは独立して動作します。

25. PRE(CH 1) / POST

(プリ(CH1) / ポスト)スイッチ  
このスイッチを押し込むと、バランス出力端子(27)からチャンネル1のポストEQ信号が送出されます。ポストEQ信号とは、トーンコントロールなどを使って加工された信

号です。このスイッチを押し上げると、バランス出力端子(27)からチャンネル1のプリEQ信号が送出されます。プリEQの信号とはダイレクト出力信号のことで、プリアンプの設定には全く影響されません。

26. LIFT / GND(リフト/グラウンド)スイッチ

このスイッチを押し込むと、トランスフォーマーバランス型ライン出力端子(27)のグラウンドピンが接続されます。このスイッチを使えば、ライン出力ケーブルに混入する残留ハムやノイズを低減できます。

27. TRANSFORMER BAL. OUT(トランスフォーマーバランス型ライン出力)端子

PAミキサー、レコーディングミキサー、外部アンプなどの外部機器にバランスのラインレベル出力信号を送出するXLRタイプの端子です。この端子から送出される信号のレベルはLEVELコントロール(24)で、プリEQ/ポストEQの切り替えはプリ/ポストスイッチ(25)で設定します。

28. インピーダンスセレクター

このスイッチで、使用するスピーカーのインピーダンス合計に合わせてアンプの出力インピーダンスを切り替えます。次の表は、複数のスピーカーキャビネットをパラレル接続した場合のインピーダンス合計を表したものです。

キャビネットのインピーダンス	キャビネットの本数	インピーダンス合計
2	1本	2
4	1本	4
4	2本	2
8	2本	4
8	4本	2

29. SPEAKER OUTPUT(スピーカー出力)端子

使用するスピーカーキャビネットをこの端子に接続してください。1/4"端子を使えば、終端が1/4"プラグのスピーカーコードを使って、アンプとお手持ちのスピーカーキャビネットを簡単に接続できます。しかし、アンプを最大またはそれに近い出力レベルで演奏するときは、スピコン端子をご利用になることをお勧めします(端子の仕様は、ピン1+=ホット、ピン1-=リターンです)。

**【BALANCED OUT(バランス出力)について】**

BALANCED OUTをご使用になる場合、日本国内では電源事情の違いから、使い方によってはノイズを発生する事があります。

その対処法として、本機の電源プラグを、アース工事がなされたアース付きの電源コンセントに接続することが挙げられます。これでノイズが軽減されることがあります。また、本機と接続先の機器の両方を同じ電源コンセントに接続することも有効です。

なお、BALANCED OUT端子をPOSTモードでご使用になる場合、本機のプリアンプのコントロール類の設定によっては、出力レベルが低くなる場合があります。この場合は、受け側の機器で適切なレベル調整を行ってください。

## 真空管の交換について

真空管は、アンプを使用する頻度や取り扱い方法に応じて消耗する部品です。パワーアンプ用真空管は最低でも1年に1回は(ほぼ毎日アンプをご使用になるお客様は、もっと頻繁に)点検してください。パワーアンプ用真空管が消耗すると、アンプの出力が下がり、迫力や安定感のないサウンドになります。

プリアンプ用真空管は、パワーアンプ用真空管ほど激しい動作環境ではないので、一般的にはパワーアンプ用真空管よりも長持ちします。プリアンプ用真空管が消耗すると、キーキーとうるさく、ノイズが多くてゲインや感度の低いサウンドになったり、まったく音が鳴らなくなったりします。

SVT-VRのパワーアンプ用真空管を交換するにはリアパネルを外し、チューブリテイナーを取り外す必要があります。

この作業は、ヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

お客様ご自身がリアパネルを外したり、真空管を交換しようとする事は、絶対におやめください。

## 推奨セッティング

スタンダード:



フレットレスの  
リアピックアップ:



ハードエッジ:



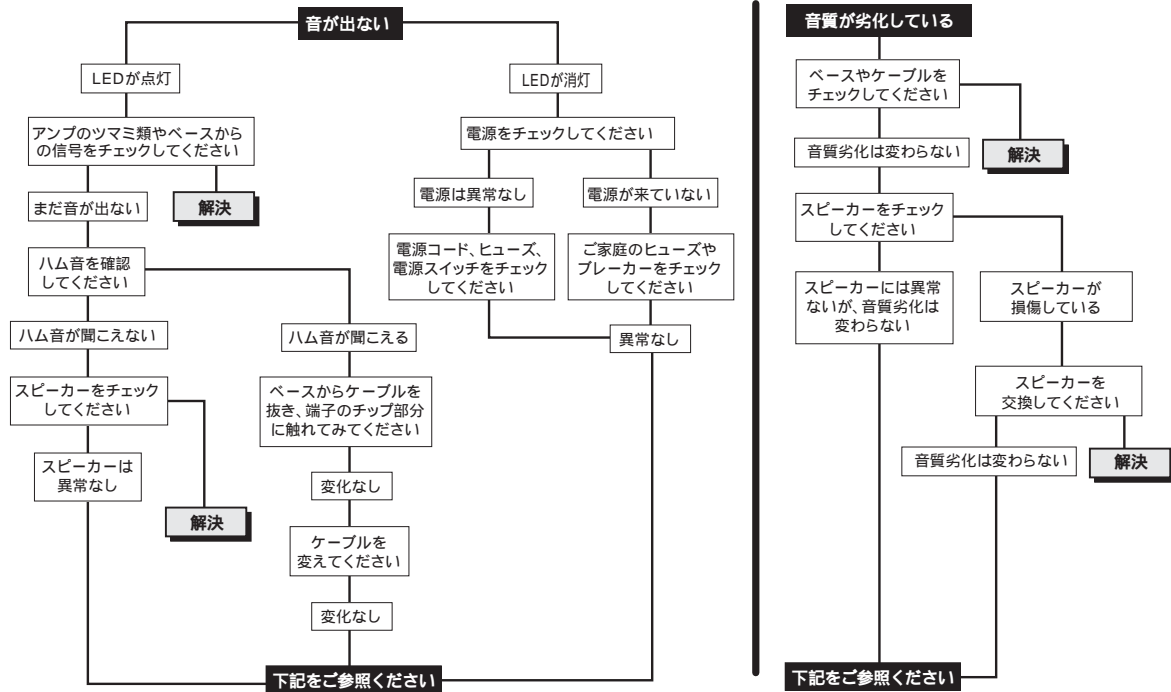
“ スコープ ”:



\* = 楽器の特性やお好みに応じて設定してください

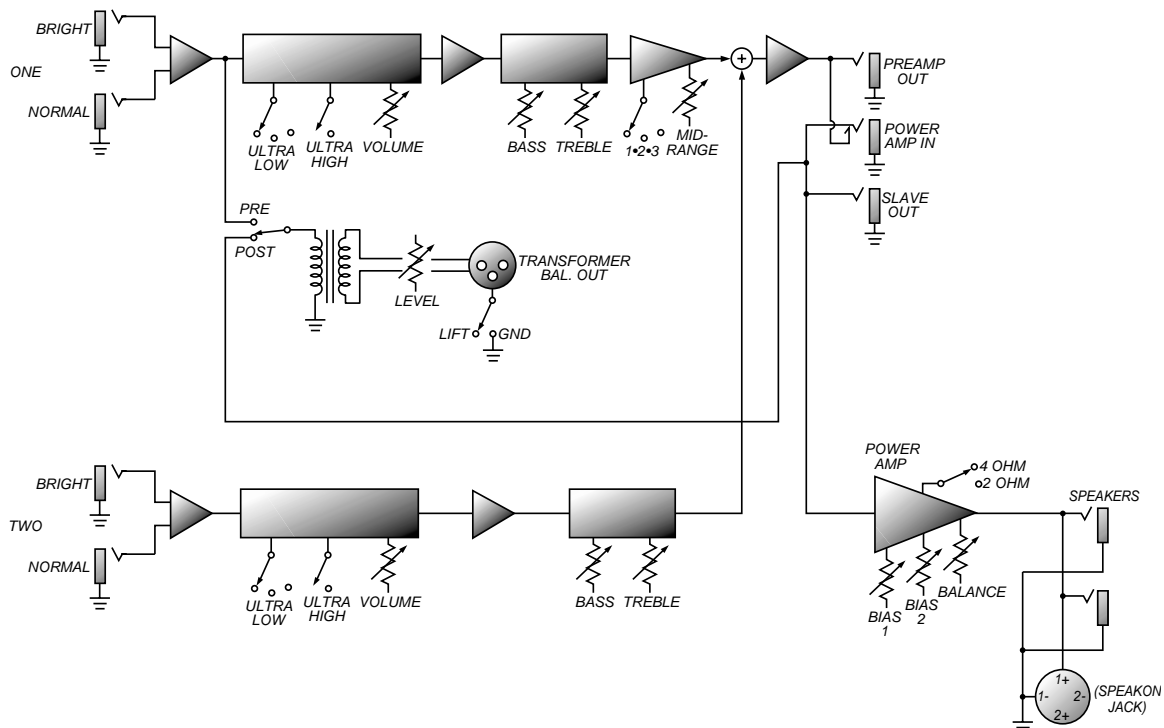
## 故障かな？と思われる前に

万が一、SVT-VRが正常に作動しないとき(あるいは単に音が出ないとき)は、ヤマハ修理ご相談センター連絡する前に、以下の項目をチェックしてください。お客様がご自身で以下の項目をチェックなされば、時間や費用の節約になるばかりか、多くの場合簡単な方法で正常な状態に戻すことができます。



上記の項目をチェックしても症状が改善されないときや“下記をご参照ください”の項目まで進んだとき、その他アンプを高所から落下したとき、アンプ内部に液体が流れ込んだとき、電源コードが損傷を受けたときも、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

## システムブロック図





## 技術仕様

出力	300W RMS@2 または4 (5% THD、0.25V RMS入力)
トータルシステムゲイン	
チャンネル1 :	66dB@1kHz(最大音量/トーンフラット時)
チャンネル2 :	59dB@1kHz(最大音量/トーンフラット時)
トーンコントロールレンジ	
チャンネル1 :	
TREBLE:	± 12dB @4kHz
MIDRANGE:	± 20dB @220Hz, 800Hz, 3kHz
BASS:	± 12dB @40Hz
ULTRA HIGH:	+ 15dB @8kHz (ボリューム @50%)
ULTRA LOW:	- 20dB @600Hz
BASS CUT:	- 20dB @40Hz
チャンネル2 :	
TREBLE:	± 12dB @4kHz
BASS:	± 12dB @40Hz
ULTRA HIGH:	+ 15dB @8kHz (ボリューム @ 50%)
ULTRA LOW:	- 11dB @40Hz(相対値)
SN比	
チャンネル1 :	75dB(標準)
チャンネル2 :	75dB(標準)
真空管仕様	12AX7 × 4本、12AU7 × 4本、6550 × 4本
対応電源	100VAC 50 / 60Hz 400VA
寸法 / 重量	41.0cm(W) × 29.2cm(H) × 32.4cm(D) / 38.6kg

***Ampeg***<sup>®</sup>

**ampeg.jp**